

## 実践レポート

## 対人援助技術 心のケアの視点

阿部<sup>あべ</sup> 優美<sup>ゆみ</sup>

八王子平和の家 心のケア担当 言語聴覚士

## 第2回

## 困らせる行動への対応

〈基本的な考え方〉

第1回では、困らせる行動の裏側にはなんらかの気持ちがあると  
いうことをお伝えした。今回と第3回は、行動への対応についてお  
伝えしたい。行動の裏側の気持ちがあついても、「どう対応す

ればいいのか?」「悪いことをしているのに放っておいていいのか  
?」という職員の疑問にお答えできればと思う。今回は、対応の基  
本的な考え方を中心に説明する。

## イライラをぶつけざるをえない

## 母親の気持ちへの対応

(マンガの結末)

前回で困らせる行動の具体例として、紫門  
ふみさんのマンガ(「家族の食卓1」小学館)  
を題材に説明した。まずは、前回のマンガの  
結末を見ていただく。

食後、お母さんは食器を洗っています。幼  
い弟は、父の足にまとわりつき、久しぶりの  
父に甘え、だっこをせがみ、高い高いをして  
もらっています。一方、お母さんは台所でガ  
チャガチャと食器を乱暴に洗っています。母

の気持ちを知っている小学生の兄は、泣いて  
いる母に気づくと、母の側に近づき、「ママ  
……」と声をかけます。声をかけられ、はつ  
とした母は、気を取り直し、母としての自分  
を取り戻します。父と楽しそうに遊ぶ弟を見  
ている兄の気持ちを思いやり、兄の気持ちを  
代弁するつもりで、マンガ①のように「パパ  
! だっこして!」といいます。

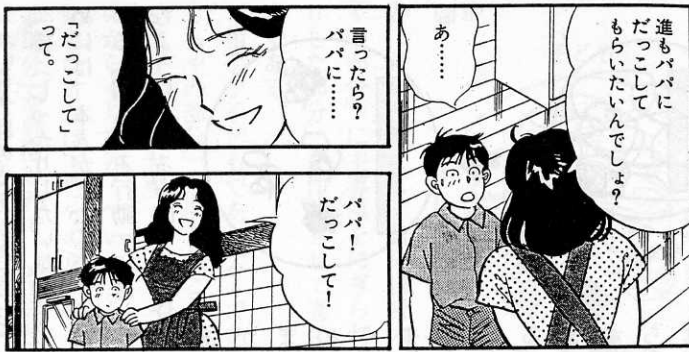
夫の「だっこ」をするという接近戦で、こ  
の妻はとうとう自分の本音、つまり怒り・悲  
しみ・淋しさ・不安などを夫に直接ぶつける  
ことになる。「ぐちゃぐちゃの部分」を受け  
とめてもらえるチャンスができたのである。  
そして、「いい関係」が復活する。

## お母さんの心の中

①「棒」と「ぐちゃぐちゃ」の図

今回の結末の二つの場面について、もう一  
度、前回の図を使って説明したい。

1 子どもを気づかい、「しっかりした大人」  
(「棒」)を取り戻したお母さん



② 紫門ふみ作「家族の食卓1」より

図1

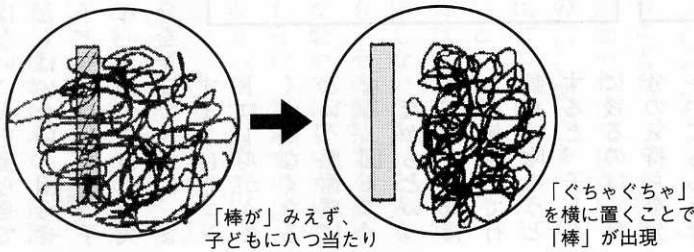
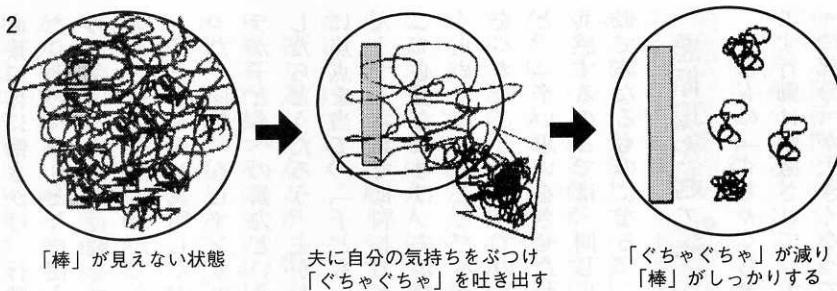


図2



お母さんの心の中に「ぐちゃぐちゃの部分」が充満してしまうと、図1のように、「棒」が見えない状態となり、「棒」、つまり本来の大人としてのしっかりとった部分が働かなくなる。そのために子どもに八つ当たりしていた母だが、兄から「ママ……」と声をかけられ自分の気持ちを立て直す。自分のなかにある「ぐちゃぐちゃの部分」をぎゅっと横において、大人として兄の気持ちを汲み取ってや

れる母親となり、一時的に「棒」は復活する。「ぐちゃぐちゃの部分」が減ったわけではないが、圧縮して抱えていられる状態となる。

2 本音をぶつけ、にっこりするお母さん

夫の「だっこ」という接近戦は、妻の気持ちを聴こうという夫の覚悟でもある。その覚悟に助けられ、お母さんのなかの「ぐちゃぐちゃの部分」が一気に爆発する。もともと夫

を大事に思っている気持ちがあるのだから、「ぐちゃぐちゃの部分」にちゃんときき合ってもらえれば、「しっかりとった部分（棒）」が作動できる（図2）。

子どもの困らせる行動のからくりと対応

ただし、前回で弟をかむ兄の例を紹介したように、人への暴力などの実害が生じるときは、ただ「ぐちゃぐちゃの部分」を聴いてあげるだけでは助けがたらない。「しっかりとった部分」への応援が必要になる。

いままでの図と違うのは、

